

アッサラーム・アレイクム

イスラマバード日本人学校 畠山稔

「アッサラーム・アレイクム」…ここパキスタンの人々が交わす一般的な挨拶である。英語で言えば、Hello にあたるだろう。朝でも昼でも夜でも、彼らはこの挨拶を交わす。アラビア語を知っている方は、なんだ同じじゃないかと思われるだろう。この国でいわゆる国語として使われているウルドゥー語は、ヒンドゥー語を基礎として、アラビア語やペルシア語、あるいは英語も取り入れた言語である。

ちょっと難しい話を最初からしてしまった。もっとここでの生活から見えてくるパキスタンを紹介することにしよう。

まずは車の話から。ふだんはのんびりとした生活をしているのに、運転はせっかちで荒っぽい。ちょっとでも遅い車が前にいれば、対向車線にはみ出し追い越していく。対向車が来ていても追い越すものも多い。「うわ、ぶつかる！」と何度も思ったが、意外とぶつからないということがこの国に来てわかった。対向車もぶつかるのはさすがに嫌だから、よけていくのだ。そんな運転があちこちでされるので、街中でクラクションが鳴り響く。そしてそれに拍車をかけるのが、歩行者である。至る所で車をすり抜けながら、歩行者が横断していく。「出てくるな！」と言わんばかりに、運転手たちはクラクションを鳴らしたり、パッシングをしたりする。

こんなせっかちな運転手のために、工夫されていることが2つある。1つは交差点での左折。信号が赤であろうと、いつでも左折はして良いことになっている。もう1つは、赤信号の待ち時間の表示。あと何秒で赤信号が終了するのか秒数が表示される交差点が多い。(ただし、これは首都のイスラマバードだけかもしれない)

いわゆるネズミ取りはこの街でもよく行われている。とばす車が多いので、よくひっかかるようだ。しかし、日本では厳罰に処される飲酒運転の検挙が皆無である。理由は簡単。この国はイスラム教の国。正式な国名も「パキスタンイスラム共和国」である。イスラムの教えで、お酒は禁じられており、酒屋もちろんのこと、私の愛する居酒屋も当然ない。飲酒運転というものがそもそも存在しない国なのである。

大人の話にばかりなってしまった。少し子どもにも目をうつそう。公園、空き地、道路、とにかく場所があれば、この国の子どもたちはクリケットをやっている。時には大人たちも。最も人気のあるスポーツは間違いなくクリケットである。新聞のスポーツ欄には毎日必ずクリケットの写真がでかでかどっている。

でも、街中でクリケットをする子どもたちは、みな男の子である。女の子は家にいることが多いようである。だいたい女性をあまり見かけない。これまたイスラムの教えである。街に出かけるときも、肌を露出することはない。敬虔なイスラム教徒にいたっては、目しか出さない。

我が家の近くには男子校があり、朝は登校する多くの男の子を目にする。しかし、この国では学校に通えない子どもも、少なくない。交差点で信号待ちをしていると、みずぼらしい服装で、車の窓をたたいてお金をねだる子どもによく出会う。こういった子どもたちは、間違いなく学校には行かせてもらってない。

なんだか、とりとめもない話になってしまった。紙面の都合で、日本人学校の子ども達の様子も伝えられなかった。また、別の機会に。お楽しみに。